

令和8年度学校評価・目標設定

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	○カリキュラムマネジメントを進め、「わかる」「できる」「伝わる」力の育成を目指す。	①ICTの利活用を推進し「わかる」「できる」「伝わる」力を育成する授業実践・授業改善に取り組む。 ②単元配列表の共有・活用を進める	①「調べる」「発信する」ことにとどまらず「共有する」「繋がる」学習活動を取り入れることで、学びを深めるICTの利活用を推進する。 ②学部ごとに実践と定期的な評価を行い、改善を図る。	①「わかる」「できる」「伝わる」具体的な姿を明確にした上で、それを実現する授業実践・改善ができたか。 ②単元配列表の共有・活用と改善が進んだか。
2	児童・生徒 指導・支援	○児童・生徒一人ひとりの特性や教育的ニーズを的確に把握し、支援・指導を組織的に行う。	①アセスメントに基づく支援・指導検討を組織的に行う仕組みを活用し、自己実現に向け個別教育計画等に児童・生徒本人の意思を反映させ、組織的に指導・支援を行う。	①児童・生徒一人ひとりの特性や教育的ニーズを、アセスメント等によりの確に把握し、その結果を組織的に共有することで、児童・生徒の自己決定、意思決定を尊重した計画立案および評価を行う。	①一人ひとりの特性や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実が図れたか。
3	進路指導・ 支援	○一人ひとりの社会的自立や生活の充実をめざし、主体的な進路選択や個に応じた進路実現を支援する。	①児童・生徒の「なりたい自分の姿」や適性に合った自己選択・自己決定を支援するとともに、福祉・医療・労働・地域関係者等との連携を図り、切れ目ない支援体制を構築する。	①社会的自立や生活の充実に向けて、自己選択・自己決定の支援を系統的に行うとともに、進路選択に関する情報を共有し、本人・保護者の願いと進路先とのマッチングとコーディネートを丁寧に行う。	①児童・生徒の自己選択・自己決定が尊重された進路支援が行われ、関係機関連携による切れ目ない支援体制の充実が図れたか。
4	地域等との 協働	○地域との連携及び地域資源を活用した教育活動を積み重ね、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ○センター的機能を充実させるとともに交流及び共同学習を進め、インクルーシブ教育を推進する。	①小学校や高校等との交流及び共同学習を工夫・改善する。地域資源の活用等による協働を通して、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ②センター的機能の充実を図るとともに、インクルーシブ教育推進について理解啓発を図る。	①地域の学校とは、交流を深めながら、共に学び共に育つ「共同学習」へと高めていく。地域と連携した教育活動や、地域での学びの場づくりを推進する。 ②教員一人ひとりがセンター的機能を担っているという意識を持ち、インクルーシブ教育推進に関する実践や取組を積極的に発信し理解啓発を図る。	①地域等との協働により、地域に開かれた学校づくりが推進されたか。 ②センター的機能の充実が図られ、インクルーシブ教育推進について理解啓発が図れたか。
5	学校管理 学校運営	○安心して快適な教育環境整備を進め、組織的・計画的な学校安全管理を推進する。 ○組織的な学校運営と校務の効率化を図り、児童・生徒と向き合うための時間を確保するとともに、不祥事・事故防止に努める。	①あらゆる事態を想定した危機管理能力を向上させ、学校安全管理の充実を図る。 ②教職員の働き方改革を促進し、安心して働ける学校づくりに取り組む。	①学校安全管理に係るマニュアル等の整備と見直しを推進する。児童・生徒の防災意識を高め、あらゆる非常事態に対応する準備を整える。 ②毎回の企画会議や衛生委員会において、働き方改革に関する討議を行い、具体的な業務改善の提案を共有するとともに、改善の成果を継続的に確認する。	①安心安全な教育環境が整備できたか。 ②「働きやすい職場である」と感じている教員の割合が8割に達しているか。